

番号	29 - 38	申請者	神経内科医師 岡崎 敏郎
<p><b>【審査申請課題】</b></p> <p>発症早期レビー小体病におけるHead-up tilt試験の診断的有用性に関する検討</p>			
<p><b>【審査課題の概要】</b></p> <p>PD及びDLBは病理学的にはレビー小体を認める類縁疾患であり長期的な臨床経過は類似している症例も多数認められるが、治療薬の反応が異なる場合も多く、早期からその鑑別を行うことは重要である。しかしながら、認知機能低下を認めないDLBなど発症早期にはPDとの鑑別が困難な場合も多い。起立性低気圧は特にDLBにおいて早期から認められることが多いが、血圧変動が小さい場合には自覚症状を伴わないため、Head-up tilt試験によって初めて認めることがある。本研究では、発症早期のレビー小体病の鑑別におけるHead-up tilt試験の診断的有用性について後方視的な検討を行う。</p>			
審査結果	承認 ( 平成30年1月26日 )		